

## 昭和36年度オ7次「平城宮跡」発掘調査概要

特別史跡「平城宮跡」のオ7次発掘調査は、昭和36年7月12日より始め、10月4日に調査を終了して、以後埋め戻し作業を行ったが、現在は作業を中断させられている。

今回調査した地域は、奈良市佐紀町寺前に属して通称一条通の北側にあり、オ5次及びオ6次で発掘調査した地区の東南に接する。この部分は水田を三枚並べた東西に細長い地域で、総面積は32アールである。

「発掘遺構」 この地域から、建物20棟・門1棟・柵4条・溝2条・井戸2基の29遺構を検出した。これら遺構の規模と配置についてはオ2・3表に示した通りであるが、遺構は相互に重複しているので、層位と掘立柱の柱穴の切り合いの関係とを検討して、その後が判定された。これをオ4・5次発掘調査の成果(奈良国立文化財研究所年報1961所収)と対比しながら記すと、次の通りである。

(「」はオ5次調査における期別を表わす。)

α期「オII期」 この時期は、現調査地域に建物が造られた最初の時で、発掘地域の西半に厚さ5cm位の土盛りを行って整地した後、205・317の建物と269の門が造営された。

β期「オIV期」

α期の後で、この地域一帯に広く盛土を行い、多くの建物が造られ

た。それらの遺構は柱穴の重なり工合や、遺構相互の配置関係によって、c・dの3時期に区分される。長期は建物200・溝130と、272・311の井戸の才Ⅰ次造管が行われた。井戸311では、この才Ⅰ次井戸の底の礫敷面上から奈良時代末期の土器・木製品類と共に万年通宝銭・神功開宝銭を発見したが、これはこの井戸を使用した下限を示すものと考之られる。

c期「才Ⅴ期」 201・206・293・299の各建物<sup>が</sup>造られた。建物の規模が大きく、また数も増えて、全体が「整然」と配置されているが、この期の特色である。

d期「才Ⅵ期」 273・285・314・321の各建物と柵276の造管された時期で、c期にくらべ個々の建物の規模は縮小した。

e期「才Ⅶ期」 d期の建物群廃絶後に、発掘地域の東部から東南部にかけてと西端に土盛りを行い、233と303の2条の南北に伸びた柵列と南辺を東西に走る溝<sup>267</sup>が造管された時期である。2列の柵間の距離は459mを計る。また井戸272・311の才Ⅱ次造管もこの時期に行われたと考之られる。井戸311では才Ⅰ次井戸枠を下2段を残して取りはがし、やや小さな井戸枠を組み上げて、才Ⅱ次井戸をその内側に造っている。その底から多量の土器・木製品類とともに隆平永宝銭を検出した。また、井戸272は才Ⅰ次井戸枠を完全に取りはがし、一部に旧材を使って新うたに造り直されたも

のであるが、そのオII次井戸底に近い堆積土中からも土器、木製品とともに承和昌宝銭が出土している。

ナ期 井戸272・311のオIII次造作のなされた時期であるが、両井戸共にオIII次井戸においては瓦器、土釜等の出土をみるから、平城宮廢絶後の時期に属することが明らかである。

〔遺物〕 特期すべきものは、2基の井戸内より出土した遺物である。まず

井戸311では、オI次井戸底面上より出土した万牟通宝銭・神功開宝銭各3点、刀子1点、錐1点、須恵器、土師器、屋瓦類、木製人型1点、漆器1点、横櫛2点等がある。土師器の中には「美所」と墨書のある甕や蔓裂の釣手を有する土器がある。木製人型は全長15.2cm、幅2.4cm、厚さ0.4cmの長方形の板を人形型加工したもので、頭部には墨で顔が描かれ、両目と胸部中央に竹釘が打ち込まれている。この井戸311のオII次井戸の底からは、隆平永宝銭1点のほか、緑釉陶器、須恵器、土師器、黒色土器などの多量の土器類、木簡2点、横櫛10点、木製陽物1点と曲物の桶、杓子等の木製品類、土馬2点等が出土した。土器の中には人面の描かれた土師器皿のほか、10点以上の墨書があるものを含む。

また、井戸272においてもオII次井戸内部の堆積土中より、承和昌宝1点、木

製板のある鎌1点、錐1点、墨書土器をふくむ多量の土器類や、横櫛21点のほか、多数の木製品等が出土した。なお、これら遺物に伴つて、両井戸とも各期毎に樹枝、木葉、種子などの多量の有機質の遺物がある。

一方、全地域より、屋瓦片、土器片が出土しているが、その量はあまり多くはなく、見るべきものも少ない。

〔総括〕以上、今次調査の概要を記述したが、このうち2基の井戸が奈良時代末に一旦放棄されながら、平戸時代初期にかなり大規模に改造されて再使用された点は注目されてよい。この改造は出土遺物から推定しうる時期や遺構の規模から考之て、おそらく平城上皇の平城遷都の計画と、上皇御所の造営に関係あるものとみられる。つまり、今回の調査により、はじめに平城上皇と関連あると考之られる造営の一端が明確となつたのである。このことは、亦5次調査で発見した天平宝字銘の木簡と相まつて、平城宮跡の遺構群の実年代を推定し得る新たな手がかりを得た点で、その持つ意義は大である。また、井戸川より発見した土師器「甕」にみられる墨書銘「美所」は、現在の調査地域を大膳駈跡の一画と想定した、亦5次発掘調査の際の推定を裏付けるものと云える。

なお、今次発掘調査地の埋め戻し作業中に、地元町民が発掘に対する協力と、就労を拒否したため埋め戻しの完了を見ぬまゝ、全く作業の中断を行わねばならなくなり、今後の調査計画全体にも大きな支障をきたした。このことは、平城宮域西南部に当る米指定地の買収計画にからんで、指定地内における土地所有者の<sup>不</sup>利益に対する不満が表面化して、向題の解決が長引く結果となった。今後、発掘調査を円滑に進めるためには、早急に平城宮跡全体に關する高度な保護対策を確立し、地元側の理解と協力を得ることが絶対必要であるし、また、そのためにも関係各方面は勿論、国民一般に対しても、平城宮跡の日本文化史上にもつ意義とその重要性を強調すべきであると思考する。

(II) 才VII次調査検出遺構

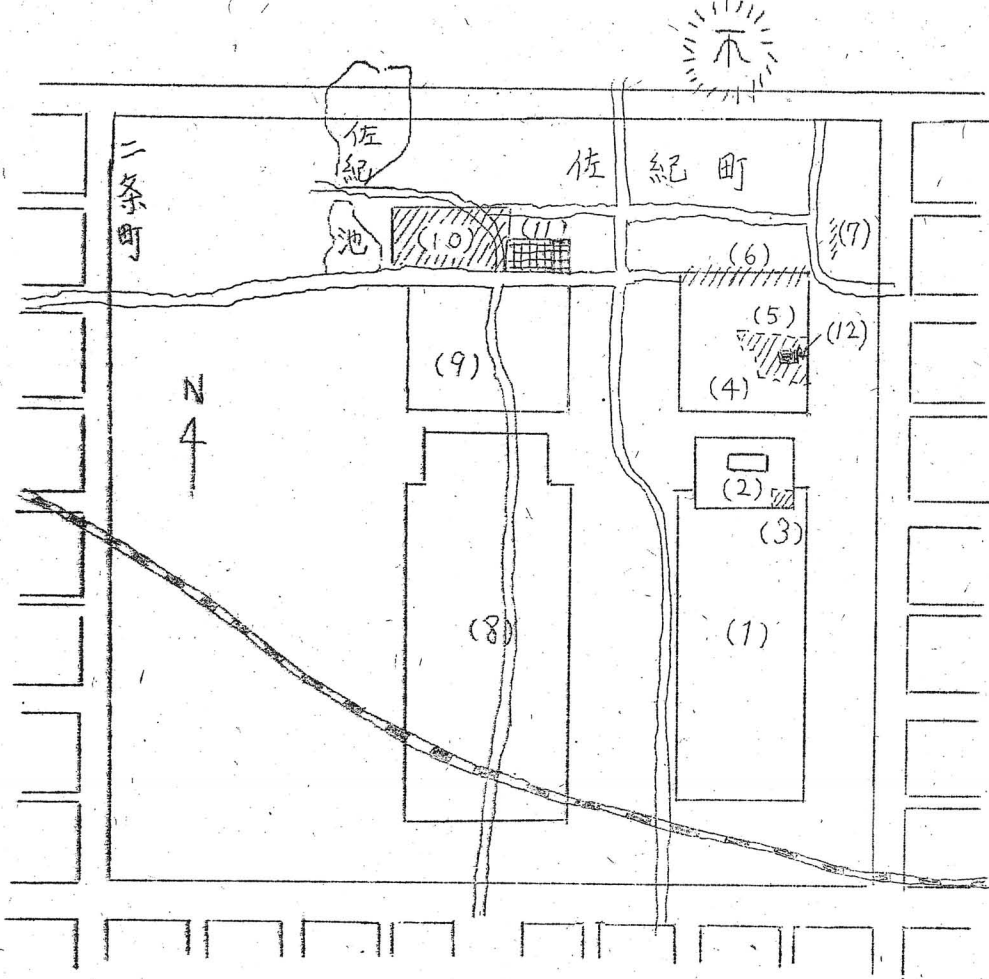
遺構番号

- 130 石敷の溝 才II・IV・V次調査で検出したものの東への連続部分
- 200 4×7間東西棟四面庇建物 12×21m 柱間3m等間 (V)
- 201 5×7間東西棟南北庇 南孫庇建物 15.6×21m 柱間3m 孫庇3.6m (V)
- 205 2×7間南北棟建物 6×21m 柱間3m等間 (V)
- 206 2×7間南北棟建物 6×21m 柱間3m等間 (V)
- 233 南北柵 柱間3m等間 (V)
- 267 東流する溝
- 268 2×3間東西棟建物 5.1×76.5m 柱間2.55m等間
- 269 内 柱間4.5m
- 272 井戸 掘りかた東西6m・南北5m 3回の造作あり。才I次井戸枠遺存せず。才II次井戸枠は、方形せいろ組木枠4段遺存。内法1.8m×1.8m。才III次井戸枠なし。
- 273 1×5間東西棟建物 3.3×13.5m 梁行柱間各3.3m 桁行柱間各2.7m
- 276 東西柵 柱間2.7m等間
- 285 3×5間南北棟東庇建物 9.3×15m 柱間3m等間 庇柱間3.3m
- 293 3×7間南北棟建物 7.2×21m 梁行柱間各2.4m 桁行柱間各3m
- 297 3×3間建物 柱間1.5m等間
- 299 東西2間で南北棟と考えられる建物の南妻部分 柱間3m等間
- 302 2×3間建物 4.2×3.6m
- 304 南北柵 柱間3m等間
- 307 3×3間南庇建物 6.6×4.8m 柱間桁行各1.6m 梁行各1.8m 庇3m
- 308 3×3間南庇建物 6.6×4.8m 柱間桁行各1.6m 梁行各1.8m 庇3m
- 311 井戸 掘りかた東西7m・南北7m 3回の造作あり。才I次井戸枠は方形せいろ組木枠2段遺存。内法2.25×2.25m。才II次井戸枠は方形せいろ組木枠1段遺存。内法2.0×2.0m。才III次井戸枠遺存せず。
- 314 2×5間東西棟建物 7.2×10.5m 柱間2.7m等間
- 317 桁行7間 柱間3m等間の東西棟建物 南側柱列のみ検出
- 318 東西2間 柱間3m等間の南北棟建物 南妻柱列のみ検出
- 320 柱間3mの建物の東北隅部分
- 321 2×7間東西棟建物 4.2×16.8m 梁行柱間各2.1m 桁行柱間各2.4m
- 322 柵列 柱間各1.6m
- 323 2×3間南北棟建物 4.2×5.4m 梁行柱間各2.1m 桁行柱間各1.8m
- 327 3×6間東西棟・南東庇建物 8.4×14.7m 身舎柱間2.4m等間 南庇3.6m 東庇2.7m

註 (V)は才IV次調査地域で一部検出済のもの

(I)

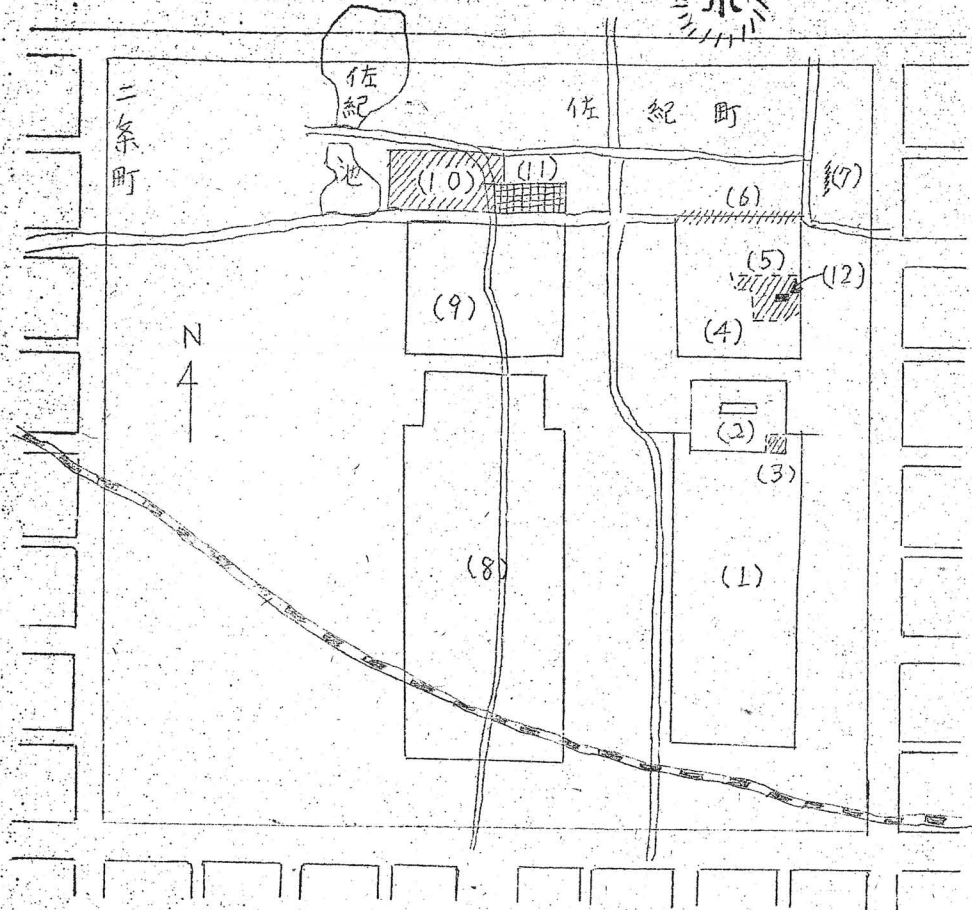
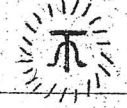
平城天皇陵



- |               |                 |
|---------------|-----------------|
| 1. 朝堂院跡       | 7 昭和3年発掘地域      |
| 2. 大極殿跡       | 8 南苑跡? (1次朝堂院跡) |
| 3. 1次発掘地域     | 9 1次内裏跡         |
| 4. 内裏跡        | 10 2・4・5・6次発掘地域 |
| 5. 3・6次発掘地域   | 11. 7次発掘地域      |
| 6. 昭和29年度発掘地域 | 12 平城宮発掘事務所     |

(I)

平城天皇陵



- |               |                   |
|---------------|-------------------|
| 1. 朝堂院跡       | 7. 昭和3年発掘地域       |
| 2. 大極殿跡       | 8. 南苑跡? (第一次朝堂院跡) |
| 3. 第一次発掘地域    | 9. 第一次内裏跡         |
| 4. 内裏跡        | 10. 第二・四・五・六次発掘地域 |
| 5. 第三・六次発掘地域  | 11. 第七次(現)発掘地域    |
| 6. 昭和29年度発掘地域 | 12. 平城宮発掘事務所      |

(II) 第七次(現)調査検出遺構

遺構番号

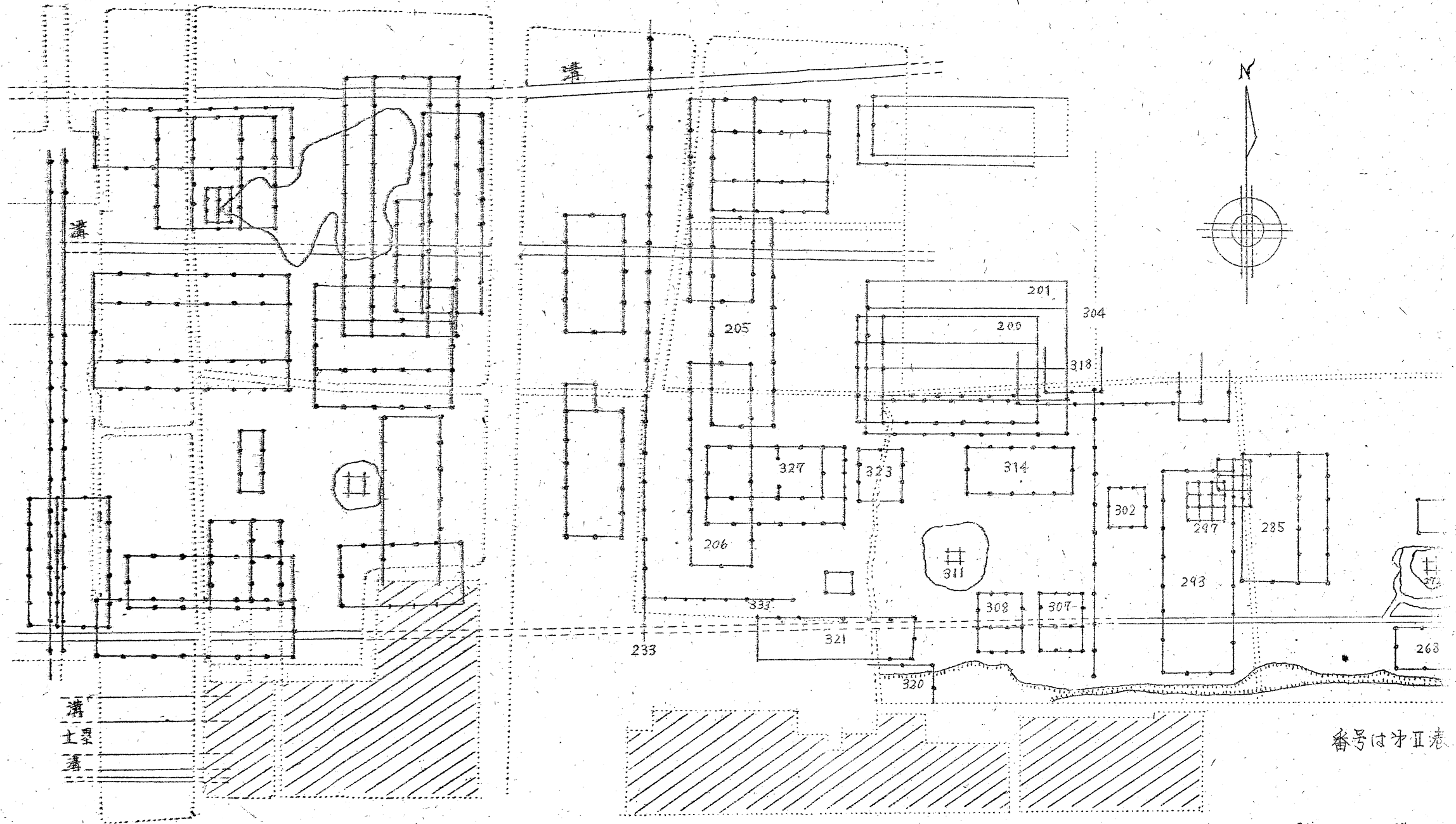
- |          |   |
|----------|---|
| 130      | 石敷の溝 第七・四・五次調査で検出された東への連絡部分                     |
| 200      | 4×7間東西棟四面庇建物 12×21m 柱間3m等間 (V)                  |
| 201      | 5×7間東西棟南北庇南縁庇建物 15.6×21m 柱間3m 縁庇3.6m (V)        |
| 205      | 2×7間南北棟建物 6×21m 柱間3m等間 (V)                      |
| 206      | 2×7間南北棟建物 6×21m 柱間3m等間 (V)                      |
| 233      | 南北冊 柱間3m等間 (V)                                  |
| 267      | 東流する溝   |
| 268      | 2×3間東西棟建物 5.1×76.5m 柱間2.55m等間                   |
| 269      | 門 柱間4.5m  |
| 272      | 井戸 掘りかた東西6m 南北5m                                |
| 273      | 1×5間東西棟建物 3.3×13.5m 梁行柱間各3.3m 桁行柱間各2.9m         |
| 276      | 東西冊 柱間2.7m等間                                    |
| 285      | 3×5間南北棟東庇建物 9.3×15m 柱間3m等間 庇柱間3.3m              |
| 293      | 3×7間南北棟建物 7.2×21m 梁行柱間各2.4m 桁行柱間各3m             |
| 297      | 3×3間建物 柱間1.5m等間                                 |
| 299      | 東西2間 南北棟と交わらぬ建物の南臺部分 柱間3m等間                     |
| 302      | 2×3間建物 4.2×3.6m                                 |
| 304      | 南北冊 柱間3m等間                                      |
| 307, 308 | 3×3間南庇建物 6.6×4.8m 柱間桁行各1.6m 梁行各1.8m 庇3m         |
| 311      | 井戸 掘りかた東西7m 南北7m                                |
| 314      | 2×5間東西棟建物 4.2×10.5m 柱間2.1m等間                    |
| 317      | 桁行7間 柱間3m等間の東西棟建物の南側柱列のみ検出                      |
| 318      | 東西2間 柱間3m等間の南北棟建物 南臺柱列のみ検出                      |
| 320      | 柱間3mの建物の東北隅部分                                   |
| 321      | 2×7間東西棟建物 4.2×13.8m 梁行柱間各2.1m 桁行柱間各2.4m         |
| 322      | 冊列 柱間各1.6m (註)                                  |
| 323      | 2×3間南北棟建物 4.2×5.4m 梁柱間各2.1m 桁行柱間各1.8m           |
| 327      | 3×6間東西棟南東庇建物 8.4×14.7m 身舎柱間2.4m等間 南庇3.6m 東庇2.7m |

註 (V)は第七次調査地域で一部検出済のもの



(Ⅲ) 平城宮跡

第ⅣⅤⅥⅦ次発掘遺構図



番号は表Ⅱ

# 平城宮跡

第4・5・6・7・8次発掘遺構図

